

森林・林業技術交流発表集

令和6年度

東北森林管理局

ごあいさつ

東北森林管理局長 大政 康史

令和6年度の「森林・林業技術交流発表会」の開催にあたりまして、主催者といたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

先ずは、会場にお集まりの皆様方、本日は当局にお越しいただきまして、誠にありがとうございました。

また、御来賓の日本森林技術協会理事長の小島様、日本森林林業振興会秋田支部長の難波様、青森支部長の崎野様、東北森林管理局林政記者クラブ代表幹事の岩手林業新報社 代表取締役の酒井^{さかい}様をはじめ、当発表会の開催に御支援、御協力を賜りました各県、関係団体の皆様方に心より御礼申し上げます。

また、審査委員長の秋田県立大学 星崎教授をはじめ、審査員の皆様方におかれましては、今日から明日にかけて2日間の長時間の審査となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は、青森県、宮城県、山形県の3自治体をはじめ、秋田県立大学、青森県立五所川原農林高等学校の2校にご参加いただきました。発表者の皆様方におかれましては、日頃の学業や業務の忙しい中での取組成果をまとめいただき、この発表会へ望まれましたことをこの場を借りまして御礼申し上げます。

また、当局の森林管理署・各センターからも21課題の発表が予定されており、職員の日頃の努力に感謝申し上げますとともに、署長様方のご指導の賜物と思っております。

おかげさまで今年度は、森林技術部門15、森林保全部門7、森林ふれあい・地域連携部門5、中学・高等学校の部1の計28課題の発表が予定されております。

内容を見ますと、森林施業の省力化にかかる課題、ナラ枯れやニホンジカ等の森林被害対策、ICTを活用した業務改善、地域資源の有効利用の取組など多岐にわたっており、いずれも時宜を捉えたテーマという風に

考えているところであります。

さて、我が国の森林は、国土の保全や水源の涵養、地球温暖化防止、生物多様性の保全、木材やきのこ、漆等の林産物の供給など、様々な機能を有しております。今年には第二次世界大戦後 80 年となりますが、戦後に植栽をしてきたスギ等の人工林が本格的な利用期を迎えております。この成熟した森林資源を永続して適切に利用しつつ、一方で育てていく、そのような森林資源の循環利用のサイクルを適切に構築するということが、現在、最も大切であると考えております。

そのためには、国の計画であります森林・林業基本計画においても、低コスト造林技術や鳥獣害対策、また、新たな視点での森林の利活用等を含めて、積極的に推進していくこととしておりまして、東北森林管理局におきましても、これらに沿った取組を進めているところです。

このためには、日頃から現場で培った皆様方の知識や技術、様々な工夫等が共有されながら、地域の森林・林業全体の知見として、現場へフィードバックされていくことが重要だと考えており、本発表会がその一助となることを期待しております。

また、明日は森林総合研究所東北支所の大西動物生態遺伝チーム長から、「ツキノワグマの出没増加の背景」と題した特別講演をいただく予定でございます。

ご案内のとおり、大西チーム長はテレビ等によく出演されており、東北におけるツキノワグマ研究の第一人者であります。まさに、現在急激に増加しているツキノワグマと人との問題があるかと思いますが、その背景や林業に与える影響等についてもお話しいただく予定としております。大変面白く、有意義な講演になると思いますので、ぜひともこちらも御拝聴いただきまして、各現場へ活かしていただければ幸いです。

最後になりますが、本発表会が地域の森林・林業にとって意義のあるものとなることを祈念しまして、開会にあたっての挨拶といたします。

本日と明日の 2 日間、よろしくお願いいたします。